



福山大学

FUKUYAMA UNIVERSITY

学 報

2020.3.20 Vol. **163**

三蔵五訓

真理を探究し、道理を実践する。
豊かな品性を養い、不屈の魂を育てる。
生命を尊重し、自然を畏敬する。
個性を伸展し、紐帯性を培う。
未来を志向し、可能性に挑む。



祝 卒業

令和元年度	学位記授与にあたって	学長挨拶	1
令和元年度	学位記授与にあたって	理事長祝辞	...	2
令和元年度	学位記授与にあたって	祝辞	3
令和元年度	在学生送辞		3
令和元年度	卒業生答辞		3

卒業おめでとうございます！



福山大学イメージキャラクター
「ふくりん」

令和の時代を創造する！



令和元年度 学位記授与にあたって 学長挨拶

学長 松田 文子

皆さん、ご卒業・修了おめでとうございます。図らずも皆さんは、令和の時代の最初の卒業生・修了生として、社会へ巣立つことになりました。

さて、在学中にはたくさんのことを学び、経験し、多くの人間関係を築かれたことと思います。それらを糧として、社会に出た皆さんが大きく花開かれることを、ここから期待しています。そして、ご家族の皆様のご長きにわたる物心両面でのご支援に、教職員一同、ここから感謝申し上げるとともに、こうして若さと知力にあふれる若者約800人を新たに世に送り出すことができることを、喜び誇りに思います。

卒業生・修了生の皆さんは、在学中には勉学を続け、卒業を迎えることが出来たわけですが、それを誇りに思うと同時に、今日までの皆さんの勉学や生活を支えてくださった家族や仲間、そして社会の人々に感謝の気持ちを忘れないようにしましょう。そしてこれからは、皆さんが社会に出て社会を支える側になることをしっかり自覚しましょう。1975年に開学した福山大学は、皆さんを含めてこれまでに、37,000人近い卒業生を送り出してきました。卒業生は、備後地域を中心に全国の様々な地域で、リーダーや中核となって社会を担っており、そこに皆さんも仲間入りするのです。卒業生は本学の宝であると同時に、社会は皆さんに大きな大きな期待を寄せています。

さて、その社会は、現在、なかなか難しい問題をたくさん抱えています。国際的に見れば、民主主義の根底にあるべき寛容の精神が失われつつあるのではないかと危惧され、あちこちで国と国、民族と民族、地域と地域の欲望がぶつかり合い、人々の分断が起っています。地球温暖化や生物多様性の激減のような、人類に等しく降りかかっている難問に対してさえ、世界が一致して対応する状況からはますます遠のいていくように見えます。また、幾何級数的に進歩するコンピュータ技術も、人々に多様で多大な恩恵をもたらす一方で、将来

の人間の仕事のありようへの不安も生み出し、さらにコンピュータウイルスやサイバーテロといった新たなそして強大な脅威を、人工的にもたらしてもいます。このグローバル社会においては、これらの難しい問題と無関係に日本の国が成り立つことも、私たち一人ひとりが社会人として生活することも不可能です。

そして、さらに我が国は、少子超高齢化、人口減少の下でどのような持続可能な社会をどのように作っていくのかという、これまで経験したことのない、外国にも解決のモデルのない、新しいタイプの難問に、先進諸国の中でもっとも早く直面しています。これから10年の間にも、生産年齢人口の急減と人工知能AIの発達等により、働く環境や働き方、そしてそれらにまつわる解決すべき諸問題は増大かつ激変することが予想されます。

皆さんがこれから支え作っていく社会は、このようになかなか先の見通しのつきにくいものであり、また困難の予想されるものではありませんが、それだけに皆さんが大学時代に学んで身につけた知識、技能、態度、それらを総合して発揮する人間力への期待も大きいのです。さらに、このような大学での学びを土台として生涯学び続ける覚悟も必要です。時代に流されるのではなく、ぜひ新しい令和の時代を創ってください。

以上、広く大学教育の成果として、今皆さんが手にしている様々な能力と態度に支えられた自信と希望を心の糧として、社会に出てもそれぞれの場所で核となる人材となり、向かってくる困難に打ち勝って、その地域を支え、そこから世界に発信し、ローカルにもグローバルにも、活躍していただければと、心から期待しています。

では皆さんのこれからのご活躍を願っています。

令和2年3月20日



実社会に 羽ばたいていく皆さんへ



令和元年度 学位記授与にあたって 理事長祝辞

学校法人 福山大学 理事長 鈴木 省三

令和元年度卒業生・修了生の皆さんの門出にあたりご挨拶申し上げます。

卒業生・修了生の皆さんは、福山大学の教職員と師弟同窓の関係の下、在学期間中を有意義にお過ごしいただき、それぞれの目標に向かって日々精進され、明日より実社会に羽ばたかれることとなりますが、現在の日本を取り巻く世界の社会情勢並びに経済情勢は、異文化間の紛争や大国間の貿易摩擦、あるいは新型コロナウイルス COVID-19 による肺炎が国を越えて猛威を振るうなどの諸問題によって極めて混沌とした様相をおびています。また、日本国内においては人口減少による生産年齢人口の減少問題・地域間格差の拡大、高齢化の進展による人生100年時代の到来等による社会構造・産業構造の変化への対応や気候変動によってもたらされる予想外の災害の発生など様々な問題が山積しております。さらに、最近ではAIや次世代通信規格5Gの発達によって、今後の社会や職業の姿が予測できないほど大きく変化していくと言われています。このような状況が続く中、未来社会は「予測不可能な社会」であると言われています。予測不可能と聞くと漠然とした不安を感じる方も多いと思いますが、一代で世界的企業を創り上げた、ある経営者は「未来はつくるもの 生み出すもの」として次のように説かれています。

「未来はこのようなものになるだろうと予測をしても、必ずしもその通りになるものではない。好ましい未来をひらくためには、将来のビジョンを描き、その実現に向かって、なすべきことを着実にしていかなければならない。未来は、予測すべきものではなく、みずから創造していくべきものなのである」

卒業生・修了生の皆さん、未来は予測すべきものではなく、みずから創造していくべきものと捉えてください。さらに言えば、社会の入り口に立つと、次は何を目指すべきか、誰も答えを用意してくれなくなります。まさに自分で課題をみつけ、答えを探し出さなくてはなりません。今日まで本学で培われた知識・技術、取得された資格等に加え、「自分で情報を収集して、自分で考える力」を基に、予測不可能な未来にひるむことなく、揺るぎなく前進されることを心より願っております。

そして福山大学の卒業生として、福山大学創設者の宮地茂先生が表明された「三蔵五訓」、すなわち（１）真理を探究し、道理を实践する。（２）豊かな品性を養い、不屈の魂を育てる。（３）生命を尊重し、自然を畏敬する。（４）個性を伸展し、紐帯性を培う。（５）未来を志向し、可能性に挑む。の理念をこれからも胸に刻み、誇りをもって実社会に羽ばたいてください。本学在学中に得た恩師・学友との絆はこれからの人生において貴重な宝であり、同窓会を通じて交流を深めていただき、自らを発展させるための糧としてくださるようお願いいたします。なお、令和2年12月にはいよいよ未来創造館が竣工しますが、いつでも気軽にこのキャンパスに足を運び、元気な顔を見せていただければと思います。

最後になりますが、これまで慈しみ育てていただいたご家族への感謝の気持ちを大切にくださるようお願いするとともに、皆様方の益々のご健勝とご活躍を祈念申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

令和2年3月20日



令和元年度 学位記授与にあたって 祝辞



福山商工会議所
会頭

林 克士

ご卒業誠にめでとうございます。卒業生の皆様方はもとより、ご家族をはじめ、先生方など関係者のお喜びもひとしおかと拝察し、心からお祝いを申しあげます。

さて、現在わが国のみならず世界各地で、新型コロナウイルスの感染拡大により、経済活動にも多大な影響が出ておりますが、今年は東京オリンピック・パラリンピックの開催など、日本の景気を左右するイベントも控えておりますので、一刻も早く終息することを願ってやみません。

そして今や時代は、AI、IoTなど著しい技術革新の進歩、5Gの実用化、持続可能な開発目標（SDGs）の達成など普段の生活や仕事のスタイルも大きく様変わりしようとしています。このような中、中小企

業が、地域の持続可能な発展の担い手として成長を続けていくためには、専門的な知識だけでなく技能・コミュニケーション能力など総合して発揮する人間力が重要であり、各企業はそうした人材を即戦力として求めています。

福山大学におかれましては、昭和50年の開学以来、常に時代のニーズに応え、確かな人間力を身につけることができる全学的教育システムを構築され、新たな時代を担う優秀な人材を数多く産業界に送り出し、地域経済をしっかりと支えて頂いております。

皆様の諸先輩方は、当地域をはじめ各地の企業で立派に職務を果たされ、高い評価を受けておられます。先輩方が切り開いてこられた信頼と実績をもとに、皆様はそれぞれの立場で、立派な職業人として日本経済の発展や、地域の振興に貢献していただけるものと確信いたしております。

終わりに、皆様が難局を乗り越える勇気と情熱を持ち、健康に十分留意され、素晴らしい活躍をされますようお祈り申し上げますとともに、貴大学の今後ますますのご発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

令和2年3月20日

令和元年度 在学生送辞



在学生総代
経済学部 経済学科

佐藤 有華

桜のつぼみも膨らみはじめ、さわやかな風がそっと頬をなでいく気持ちのよい季節となりました。卒業生の皆様、本日はご卒業おめでとうございます。在学生一同、心よりお慶び申し上げます。

皆様は福山大学に入学されてから今日までの間、たゆまぬ努力を重ねてこられ、学内外での様々な活動の中で活躍されてきました。今日ここに、学位記を手にする喜びは、ひとしおのことと思います。また、ご指導いただいた先生方、共に助け合い成長していった友人との思い出を振り返り、胸いっぱいになられていることと思います。

私たちが在学生は、研究やサークル活動、学部・学科の行事などを通して、先輩方から数多くのことを学びました。私は経済学部在籍していますが、勉強を行っている際、専門教科の問題がわからず困っていた時には親身になって教えてくださり、アドバイスしていただきました。

私たちが日々努力し、一步一步歩みを進めていくことができるのも

先輩方の大きな背中を追い続けてきたからです。また、学びの内容や環境は異なりますが、人間文化学部、工学部、生命工学部、薬学部、の在学生も同じように感じていると思います。私たちが在学生一同は、先輩方のご指導に心から感謝し、後輩たちのよき手本になれるよう日々精進してまいります。

さて、約30年間続いた平成の時代も終わりを迎え、新たな時代を迎えました。また、今年の夏には東京オリンピック・パラリンピックが開催され、我が国日本というものを世界に発信していく機会が数多くあります。その一方で、自然災害も多く、昨年は千葉県を大型台風が襲い、大停電などの災害に見舞われました。未だ爪痕は残っており、一日も早い復興が望まれています。

このような厳しい社会や変化に富む環境において、福山大学で身につけた専門性に裏打ちされた幅広い知識と柔軟な思考、地域活動などで培われた豊かな人間性を社会で発揮され、ご活躍されることを心より祈念しております。

私たちが在学生は、先輩方が築かれ受け継いでこられた福山大学の伝統と学風を継承し、三蔵五訓の理念を礎とし、母校のさらなる躍進と発展のために一層の努力をしていきます。

最後になりましたが、皆様のご健康と進まれる前途に幸多からんことを心よりお祈りいたしまして送辞といたします。

令和2年3月20日

令和元年度 卒業生答辞



卒業生総代
工学部 建築学科

児嶋 亜美

冬の寒さもようやく緩み始め、顔を上げると、にわかに膨らんだ桜のつぼみが麗らかな春の訪れを感じさせます。ここに、卒業の日を迎えられたことを大変感謝いたしております。

また、理事長鈴木省三先生並びに学長松田文子先生より訓示と激励のご挨拶を賜り、福山商工会議所会頭林克士様よりご祝辞を賜りました。また、在学生の方からは温かい励ましの言葉をいただきました。卒業生一同を代表して、厚く御礼申し上げます。

4年前、私は家を設計したいという夢を持ち、福山大学建築学科に入学しました。建築学科は女子が少ないため、不安を抱えながら入学したのを今でも覚えています。建築学科での学びは日々、課題・設計・製図に追われる毎日です。建築学科は1人1人のオリジナリティを出す場所であり、自分の考えたアイデアを形にする日々は壁にぶつかり大変なこともありました。非常に大変なことが多い中、友人と声を掛け合い、技術を教えあい、ともに乗り越えることで深い団結力ができました。女子が少ないという不安を抱えていた私ですが、4年間で

共にした仲間のおかげでその不安はなくなり、今では男女問わず、なんでも打ち明けられる存在です。

また、卒業設計展など学生を主体とした行事も多く、学年を超えて協力し、達成することで上下の関係も深く築くことができました。まだまだ語り尽くせぬほどに思い出はありますが、その思い出のそばにはいつも、ここにいる仲間たちがいます。おどおどと初めて出会ったあの日から、私たちは共に壁を乗り越えることで、かけがえのない存在になりました。卒業を目の前にした今となっても、また明日からも皆に会える気がしてなりません。そんな仲間たちに、この福山大学で出会えたことを心から幸せに思います。

今日、この日をもって私たちはそれぞれの夢に向かい、足を踏み入れたことのない世界に旅立ちます。これからそれぞれの場所で多くの人と出会い、学び、ときに戸惑い、悩むことと思います。そんな時には、福山大学で学んだことを思い出し、新たな仲間や先輩方と共に乗り越えていきたいと思えます。

結びにあたり、今日まで熱心にご指導下さいました先生方や、いつも私たちが気持ちよく過ごせるようお力添えくださいました職員の皆様、大切な仲間達、温かく見え守ってくれた家族、これまで出会った全ての皆様へ感謝申し上げますと共に、福山大学の今後益々のご発展と、在学生の皆様のご活躍を心よりお祈りいたしまして、答辞とさせていただきます。

令和2年3月20日